琉球大学学術リポジトリ

家庭看護について　ー病気の回復を早めるためにー

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学農家政学部
	公開日: 2011-07-01
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 宮里, 澄子, MIyazato, Sumiko
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20895

家庭看護について

―病気の回復を早めるために―

家族を健康に過させることは主婦の最も大事なつとめですが不幸にして病人が出た時は一日も早く回復させるような良い看護婦になることも又必要です。昔から病気をなおすためには一に看護二にくすりということばがあります。そこで今日は看護の一般的な知識についてお話致しましょう。

1良い家庭の看護人になるための心がけ

1)健康であること：

帯もとかずに看護するということは決して美徳ではありません。今流のことばで云えば丈夫で長持ちするように病人のことばかりでなく自分の栄養や休養にも充分気をつけて最少の労力で能率的に仕事ができるようにしましょう。主婦が看護の疲れで寝こんだりしたら家庭内は完全にお手おげです。

2)明るく機敏、そして落着いた態度を：

病は気からといわれます。病人はとかく悲観的で神経質になりがちですがその気持をひき立ててやる事は大事です。また物事を機敏に片ずけることは大切ですが沈着さがありませんと病人をいらいらさせ安静のさまたげになります。

3)時間の観念に強くなる：

時は金なりということばは看護の場合もいえることです。食事や服薬、その他の処置も規則正しくすることが回復を早めます。4時間おきにのませるべき薬を時間を忘れて6時間おきや3時間おきにすることは病気回復によくありません。

4)経済の観念を発達させて：

病気はお金のかかるものとあきらめてしまって節約できるものまで大ざっぱになりがちです。たゞでさえ非生産的な病気なのですから出来るだけむだを省くようにし、用具や材料も持ちあわせのものや廃物を利用するように工夫しましょう。

5)病状日誌をきちんとつける：

病人のようすを記録しておくことは病気の診断や治療上医者にとってよい参考になり病人や看護人のためにもよいことです。その都度忘れずにありのままを、しかも誰にも読める字でかいておきましょう。

2看護に必要な知識と技術

1)くすりを与える時の五っの条件：

①定められた人に

他の誰でもなくあなたの病人に与えましょう。

②定められた薬品を

他の人に効果があったからといってもくすりを勝手に使用するのは危険です。医者や薬剤師によってその病人のために処方されたくすりを使用しましょう。

③定められた時間に

それぞれのくすりの効果を考慮して服用時間がきめられていますから指定された時間を守ることは大切です。

④定められた分量を

早く治したいために2回分をまとめて飲んでも効果はのぞめません。一回分づつ飲ませることです。

⑤定められた方法で

くすりの種類によって与え方がちがいます。使用法を守りましょう。

●水くすり

イ、良くふってから一回分づつ別の容器にとってから与えます。 （10ページの左に続く）

家庭看護用具の種類とその扱い方

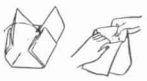
器具	とり扱い方	注意	あとしまつ及びそのほか
体温計	（口腔用） 1.舌の下になゝめに入れて軽く口をとじさせる 2.腋のもつともひっこんだところに （腋下用） 3.はさんだ側の腕を胸に。 （腔門用） 4.おもに乳幼児に使用する 5.水銀の部分に油をぬり3糎以上さしこむ	1.腋下より1～2分高い。 2.あついものやつめたいものを食べたあと10分位はさける。 1.腋下をよくふいてから。 1.腋下より2～3分高い	1.ガーゼかちり紙をぬらし石けんをつけてまわすように拭き石けん分をふきとりケースに収める。 2.一年に1度新しい体温計と比較検査すること。 3.水銀をさげる時は指先で水銀の部分をかくすようにして
氷枕と氷のう	1.ゴムやプラスチックはよくぬらす。 2.氷が散ぴちらないようにふきんをかけて砕く 3.容器の½か⅓位入れる 4.コップ一杯の水を加えそれをおし出すと空気もでる 5.表面の水をよくふきとりタオルかがーゼで包んで 6.氷がとけてしまわないうちにとりかえる	1.空気をよく出さないと枕がふくらんでいて頭が不安定である。 2.空気を入れて栓をして水の中でもれないかどうかしらべる 3.氷がとび散らないようにフキンをかけて氷を砕く 4.氷の角をとるためにはざるに入れて水をザーツとかける。 5.少量の食塩を加えると長もちする	1.石けんと微温湯でよく洗う。 2.中の水分をよくとるために新聞紙を口に差しこみ、さかさに吊るしておく。 3.かわいてからポウダーをかける 4.首にあてる場合は細長い氷のうを三角巾でまいて頭の上で結ぶ
温湿布	1.バスタオルに湿布用布を包み洗面器に入れ両端を外に出しておく 2.70度位の湯をタオルに注ぎ 3.しぼつたら湯をすてて洗面器ごと病室へもっていく 4.やけどをしないためにオリーブ油をぬる。 5.タオルをとり出し両端をもってパッとふり蒸気を出し自分の腕の内側にあててみてから病人にあてる。 6上から油紙かビニールと更にタオルをあて図のようなものをつくって固定する。	1.長時間持たせたい時にはかいろや湯たんぽを(6)の上において固定図のような物を作っておくと便利 3.長時間する時はよくふきポウダーでマッサージ 4.傷口に直接の場合にはタオルを蒸気消毒してからつかう。 5.目の場合は消毒がーゼを2～3%硼酸温溶液に侵してあてる。 6.あてる場所により温度を加減する	1.石けんでよく洗い乾燥させる。 2.湿布用具の作り方→ 3.棒は紛失しないように 4.当てる場所によつて温度を加減する。 5.乳児は大人より女性は男性より熱に対して敏感である。 6.湿布用布はさめやすいのでしばしばとりかえる。
湯たんぽ	1.60℃の湯をやかんから⅔位 2.もれない様に栓をしつかり 3.カバーでよくつつみ病人の皮ふにじかに当らぬように 4.毛布一枚へだてると安全	1.もらないように 2.湯タンポが充分包めるカバーを厚手の布でつくるつておくとよい	1.中の水をよくきる。 2.栓をしないでさかさに吊るして乾燥させる。 3.ゴム製品はくつつかないようにポウダーを振っておく。
浣腸	1.病人は仰向か左向きに 2.腰から足下までビニールをしく 3.膝をたて肛門にワセリンをぬる。 4.少しいきませて静かにさし込む 5.浣腸中病人は口をあかせて静かに呼吸させる。 6.注入後は脱脂綿で軽く肛門をおさえ10分後に排便させる 7.市販されているいちじく浣腸は便利	1.挿入は静かに 2.薬液が入りにくい時はむりをしない。 3.注入中病みがあったら中止して医者の診断を受ける。 4.浣腸は乱用しないこと 5.いちじくの場合は量を充分使用しないと効果がないから2～3個揃えておく。	1.浣腸液の種類 食塩水→ 500ccの水に塩1茶匙 石鹸水→ 5%の水溶液 グリセリン液→湯で2倍にうすめる 2.分量 大人→80～ 100cc 子供→40～50cc 乳児→10～20cc 3.温度 体温と同じ位→36～37°

器具	とり扱い方	注意	あとしまつ及びそのほか
吸入器	1.吸入器の釜は沸騰させ他の一切を準備してから病人の所にもつていく 2.ゴム前かけをかけ顎の下とあたまとにタオルをかける 3.蒸気受けを病人の両手にもたせ顎の下にさし入れる。 4.ランプに点火し蒸気が出てから病人の口から20cmの所へおく 代用吸入器 イ紙袋で ロ傘を利用	1.やけどしないように 2.窓をとじ通風をさける。 3.薬液はコップ2杯 120ccを使用す 4.おきられない病人の場合は寝たまゝ口をあけて 5.吸入時刻、種類、使用薬剤、病人の気分を記録する。	1.器具類の水分をふきとる 2.ランプのアルコールは他の入れ物にうつしておく。 3.部分品が粉失しないようにまとめて箱に入れる 4.吸入薬は 1－3％　重曹水 1－2％　硼酸水 1－2％　食塩水
ほうたい	巻軸帯 1.看護人の左から右へ　2.きつすぎないように 3.始めと終りは環行帯 4.細い所から太い方へ 5.傷の上で結ばない 多頭帯（臍帯のようなもの） 1.患部の細い方から太い方へ向つて一つの上に重ねながら 2.最後のものでしばる 三角巾 1.大きいものは腕をつるしたり肩や胸の傷などに 2.細長くして目や耳にする	1.包帯をとりかえる時には患部を動かさない 2.血や膿が固まつていたら硼酸水でぬらしてとる 3.異常を感じたらすぐ巻きなおす 1.切り目の糸くずはその都度切りとつておく 1.一辺1m位のものなら利用範囲が広い	1.汚れたものは石けんでよく洗う 2アイロンでしわを伸しながら消毒する 3.よく巻き直して清潔な箱に保管しておく。 1.市販されてないので白い余り布などで作つておく 2.一度使用したものは洗濯アイロン 1.巻軸帯でむつかしい部分などに工夫して使用する 2.多頭帯も同様に小布で大小そろえておくとよい。
ガーゼ 油紙	1.あらかじめ15センチか30センチ角にきりセロフアンかビニールの袋に密封しておく 2.傷口の血や膿を吸収させ傷口をおうのに使用する	1.清潔に保存する　2.とりかえる時傷口に付着していたら脱脂綿にオキシフルをひたしガーゼの上からぬらしてからとる	1,まつすぐ切ろうと思う時は糸を一本ぬきとつてそのあとにハサミを入れる
脱脂綿	1.傷口をおゝつた消毒がーゼの上にのせて傷からの分泌液や汚物を吸収させ傷口を保護する場合に使用　2.綿棒を23本用意する。	1.直接傷口に用いてはいけないせんいが傷口についてとりにくい 2.海水浴などで耳につめたりしない	1.つまようじや割箸の先を水につけて脱脂綿をまいて綿棒をつくる 2.傷口に薬をぬつたり、口の掃除に

そのほか便利なものをいろいろな本を参考にしながら考えてみましよう。

1.ちりかご

病室の整頓のために塵かごが必要ですが新聞紙や包装紙をつかつて作りますと、それごと処理できますので衛生的です。

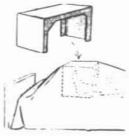


2.スリッパ

ちりかごと同じ方法でつくりかがとを安全ピンでとめただけの紙のスリッパですが室内だけですと結構丈夫で便利です。

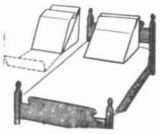
3.食卓兼育被架

紙箱の大きなものを図のように切りとつて食卓をつくりますとベットで食事する時に便利ですし離架被にも利用できます。



4.背中もたせ

病人が食事をしたりテレビを見たりする時のために紙箱でよりかかれるものを作ります。代用として普通の腰かけもつかえます



5.環状褥

ストッキングの古いのでドーナツをつくり床ずれの予防に又傷の保護に役立てます。

6.病人用便器

浣腸した時や夜など室内用の便器がありますと楽です。写真のようなものを作つてはいかがでしようか。乳幼児用おまるとしてもよいと思います。

（３ページの続き）

ロ、レッテルは手の掌側に持ち汚さないようにしましょう。

●こなぐすり

イ、薬包紙の中央にみぞをつけて集めます。

ロ、口に水を吸ませくすりをその水に浮かせるようにして一気にのみこませます。

ハ、乳幼児は水にとかして水ぐすりにしてのませるか又はスポイトで口の奥の方に。ミルクに入れてはいけません。

●錠　剤

イ、あらかじめ水をのませ喉の通りを良くしておきます。

ロ、のみにくいのはくだいてこなぐすりのように与えます。

●油剤（ひまし油、肝油など）

イ、よくひやしたジュース類に浮かせて一気にのませます。

ロ、更にのむ前に重曹をまぜて泡立ててから泡と一緒に又は

ハ、氷片を舌の上にのせて感覚をまひさせてから与えます。

2)くすりの保管のしかた

①くすりをしまっておくところは熱と湿気の少い所がよいようでコンロ台の近くや洗面所の近くは不適当です。

②質の変りやすいのは冷ぞう庫に入れておきましょう。

③容器には中味をかいたレッテルをはっきりはっておき

④古くなったものや中味の明瞭でない物はつかわないように致しましょう。　　（みやざと　すみこ）